

伊賀市の 元気づくりに 取り組みます



あけましておめでとうござります。日頃は、市政運営にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。昨年11月、多くの市民の皆さんからご支援をいただき、引き続き市長として、伊賀市の舵取りをさせていただきますこととなりました。

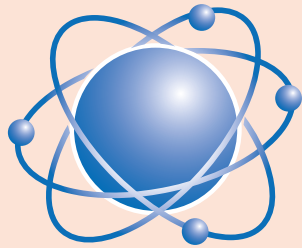
新型コロナウイルス感染症が心配される中ですが、これからはコロナの先の賑わいづくりに取り組んでいくことが大きな課題です。社会の価値観が変わったことで、伊賀という地域が注目される価値を持っていることも見えてきました。そういうことも生かしながら、誇れる伊賀市をめざして施策を進めていきたいと思っています。

デジタル トランスフォーメーション DX (Digital Transformation)

トランスフォーメーションとは改革や変化のことで、DXはデジタル変革とも呼ばれています。DXとは、自治体と住民がデジタル技術を活用して、住民本位の行政、地域、社会を築いていくことです。

デジタル技術を使うことが目的ではなく、デジタル技術を使って住民サービスの仕組みを作り変えたり、新しい価値観を生み出したりにして、地域や住民の生活が便利になることです。

例えば、市役所に行って申請しなくても行政サービスを受けることができたり、また、災害発生時には、災害情報や避難方法などリアルタイムで知ることができるようになります。



「いざいざ、くらし、にぎわい。」
これからの4年間に取り組む大きな柱として「くども、くらし、にぎわい。」の3つを掲げました。

くども
未来を担う地域の宝である子どもを、安心して産み、育てることができるといって支援していきたいと考えています。その一つとして、小学校の給食費を継続して無償化することを検討したいと思っています。

くらし
上野総合市民病院の経営が赤字に戻ったことで、これからもしっかりと医療体制を充実させていきたいと考えています。また、多様性のある

社会をめざし、誰もが自分らしく生きることができるようまちづくりを進めていきます。

にぎわい
旧上野市庁舎の活用、成瀬平馬家長屋門跡地を活用した忍者体験施設など、中心市街地一帯のエリアマネジメントを推進したいと考えています。

また、市内の空き家を活用した分散型の城下町ホテルが開業し、好評を得ています。今後は中心市街地だけでなく、市内全域にも取り組みを広げていきたいと考えています。さらに、若者たちに地域の産業に従事してもらえよう取り組みたいと思っています。

コロナの先を見据えて

新型コロナウイルス感染症対策は、今後も迅速に施策を進めたいと考えています。市民の皆さんにも、それぞれ感染予防をお願いします。コロナ禍の時代、悲観的なことばかりではありません。これからの社会は「SDGs（持続可能な開発目標）」をキーワードに、市民一人ひとりに寄り添っていく交通体系や医



成瀬平馬家長屋門

誇れる伊賀市をめざして

療体制などが求められます。さらに、DXの時代を迎え、デジタル化、オンライン化が一気に進むことが予想されます。

これにより行政の申請や証明など多くの手続きは、やがてどこからでもできるようになり、行政のあり方や機能も変わってくるのではないかと思います。

その中で、支所の役割も変わり、あり方が変わってくると考えています。支所のあり方については、防災の拠点、あるいは窓口機能など、何を残すのか、これから市民の皆さんの意見を聞かせていただき適切に対応していきたいと思っています。

私たちの伊賀市は、伝統文化や歴史、おいしい産品などが豊富で、大都市から遠すぎず、自然が豊かなところです。新しい価値観に合った地域だと感じています。

そうしたことを皆さんと共有しながら、心豊かに安心して暮らせる地域づくりを進めていきたいと思っています。

市民の皆さんと力を合わせ、コロナの先の未来づくり、伊賀市の元気づくりを全力で取り組んでいきますので、引き続き、ご理解とご協力をお願いします。

伊賀市長 岡本 栄